

第 196 回ペン川柳（お題＝熟）令和 2 年 9 月 28 日

世話人：塚田 實（^だ ^だ 拿々）

（*印は今月の互選五句、*は最優秀句）

1. 熟女なのうそぶくけれど実は古希（我々好＝浜田）→ 3 票
「お～、耳が痛い」との声もありましたが、ペンクラブでは古希はまだまだ若者です。益々の活躍を期待しています。
2. 阿保かいな熟した桃まで皆メール（だし＝大野）→ 0 票
作者弁によると「山梨県の桃園が、見学者も来ず、桃もどこに捌いてよいか困って、メールで全国に窮状を訴えたところ、見学者は殺到、桃も注文で忽ち売れた」という話を句にしたとのこと。
- * 3. 渋柿が熟柿妬んで酒浸り（火酒＝三春）→ 6 票
「安い肉と渋柿は酒に浸せば美味しくなるけれど、人の酒浸りはどうでしょうねえ……」は作者弁。リズムも良いし、コミック的面白さもあると優秀句に選ばれました。
4. もう駄目だ触れなば落ちん熟し柿（損得＝細谷）→ 2 票
「もうなまじっかのグラマーではびくともしませんが、そこはかたない色気にはかないません」は作者弁。エロチックな雰囲気は漂っていますね。
5. おさげの娘（＝）そのまま熟れた妻老いる（酩帝＝曾山）→ 1 票
作者は夫人と小学校時代からの知り合いだったようです。その後人生の荒波を共に乗り越え、今に至りましたが、溜息とともに妻を眺めているようです。火酒さんから「美少年そのまま熟れた夫（つま）ボケる」の返歌も。
6. オンライン熟女上手にライティング（拿々＝塚田）→ 3 票
コロナ禍でオンライン会議のたびに感心していましたが、臨場感がないのか会議に参加しない川柳子からは支持が伸びませんでした。「これは対象が誰か大分縛られますね」とのご指摘もありました。
- * 7. 少女美女熟女と生きた完熟女（明迷＝八木）→ 5 票
「完熟は食べごろ、一番美味しい。完熟礼賛」（火酒）の声もあれば、「こういう女性は、男を破滅に導くのではないか」（酩帝）と懸念する声も。優秀句に選ばれました。
- * 8. 巢ごもりだ増える熟女のひとり酒（零門＝松谷）→ 7 票
コロナ禍では、「熟男」も同じです。酩帝さんは「ああ勿体ない。巢ごもりの年よりは、いつでもお付き合いしますよ」と答えています。優秀句に選ばれました。
- * 9. 熟すのを終えて八十路は枯れすすき（酔雅＝西川）→ 4 票
それでは寂しいですね。作者は多方面で活躍しているので、まだまだと思っているに違いありません。優秀句に選ばれました。

10. 浅ましや熟慮に抗う老青年 (晃二=安藤) → 1票
「わかっちゃいるけどやめられない」は作者弁。「はつらつとした若者であってほしい」(井波)や「中八では」(零門)という指摘もありました。
11. 熟し過ぎ味も落ちたし実も崩れ (酔深=平尾) → 3票
「実も崩れ」は侘しさを誘いますね。「熟した頃はさぞ美味しかったのでしょうね」(酔雅)という前向きの評価もありました。
12. 熟れる前摘んだ連れ合い枯れた今 (井波=稲宮) → 3票
「これは殆どの世界の男性が辿る道なんです。熟れる前のお連れ合いは初々しく、アッという間に枯れるのが世の習い。でも自分も枯れるのをお忘れなく」は酪帝さんの評。
13. まずい柿熟れ熟れサギに会いました (明迷=八木) → 3票
「熟れ熟れサギ」は「売れ売れ詐欺」とも読めそうで面白いですね。特に高齢者は詐欺にご注意。
14. 熟柿ありカラスが狙う負けるなよ (安兵衛=山縣) → 1票
庭に柿を植えている方は気を付けてください。カラスに取られる前に、熟柿は家に取り入れましょう。
15. 高い酒ひさびさ呑んで熟睡す (酪帝=曾山) → 2票
「いつもの安酒でも熟睡してるけど、贈物の高級酒は懐が痛んでないだけに安眠！」(火酒)は句意を上手く取り入れた抜群の評ですね。
16. 熟れた房蔓から消えて金蔓へ (晃二=安藤) → 1票
この句も色々議論を呼びました。「ワインのことを言っているのか」(井波)。作者は高級ブドウ「シャインマスカット」をイメージしているそうです。確かに、値段は高いですね。
17. 皆熟す平均年齢七十歳 (だし=大野) → 0票
ペンクラブも高齢化社会を反映していますが、皆気心は若くて発展心に燃えています。相互に刺激しあって頑張りましょう。
18. 戦意ボツ！徒な熟女の鼻ちょうちん (火酒=三春) → 2票
子供の鼻ちょうちんは見たことがありますが、熟女の鼻ちょうちんは見たことがありません。風邪でも引いていたのでしょうか。戦意喪失ではありますが、熟女の可愛い姿が思い浮かびます。
19. 枯れてなお熟女目で追うエロじじい (酔雅=西川) → 1票
「目で追うだけか？」とか「追わなくなったらおしまいだ」など諸説湧きました。いつまでもエロ気を保ち続けるのが長生きの秘訣ではないでしょうか。
20. 熟し柿の旨味あるぞと傘寿吠え (我々好=浜田) → 1票
傘寿になってもまだ誘っているのですね。その元気さに脱帽です。ペンクラブでは80代がとても元気です。

21. 機熟すか離れ離れの初五輪 (井波＝稲宮) → 2票
 作者弁は「私の想像では観客席は、大相撲のように離れ離れに着席させられ、歓声をだすのはばかれる。何かすすきすきだらけな応援席で、静かな盛り上がりを期待する初五輪かと想像しました」でした。東京五輪のマラソンが札幌開催になったことかと想像した人もいました。
22. 機が熟す気付かず逃し5万回 (零門＝松谷) → 0票
 「後で気が付く『何とか病』でした」は作者弁。こんなことは誰にでもありそうですね。ごく一部が「気が付く」幸運に恵まれるのではないのでしょうか。
23. どうなるか熟れた社会の先行きは (拿々＝塚田) → 1票
 成長戦略の見えない成熟社会の先行きを憂え句にしましたが、支持が伸びませんでした。しかし、この問題はこれからの最大の問題ですは、作者の負け惜しみです。
24. 機が熟す頃には草臥れ放り出す (損得＝細谷) → 2票
 「若い頃には何回トライして失敗しても、一寸休めばたちまち元気が快復したものでしたがね」は作者弁。加齢に抗して川柳で頑張りましょう。
25. 初恋も還暦過ぎりゃ熟しすぎ (酔深＝平尾) → 1票
 「還暦はまだまだ未熟！」は火酒評、そしてこんな句を詠みました。「初恋も米寿過ぎれば化石かな」
- * 26. 熟れ頃は腐る手前のそこが良い (安兵衛＝山縣) → 10票
 ステーキ肉でも何でもそうですね。貴腐ワインは好きではないとの川柳子も。「そこ」とは「どこ」と真面目に悩んだ方もいました。色んなことを想像させますね。語呂も良いし、本人抜きで12票のうち10票を獲得し、堂々最優秀句に選ばれました。安兵衛さんは前回(第195回)も最優秀句だったので、2連勝です。

投句13名＝大野ただし(だし)、曾山清徳(酪帝)、細谷博(損得)、西川武彦(酔雅)、
 浜田道雄(我々好)、稲宮健一(井波)、山縣正靖(安兵衛)、松谷隆(零門)、
 安藤晃二(晃二)、平尾富男(酔深)、塚田實(拿々)、三春(火酒)、
 八木信男(明迷)

投票13名

10月以降の予定とお題：10月27日(火)「足・足る」
 11月23日(月)「落」
 12月22日(火)「氷」